

牛飼いに信仰された山

■筆者プロフィル■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

鳥取との県境付近に牛ヶ峰山がある。岩井温泉からみる牛の寝姿に似ているので、その名が付いたという。

そこにこの山の名を冠した神社がある。現在、海上集落にある牛峰寺も、かつてはこの山にあった。牛ヶ峰神社には牛の守り神といわれる保食命(ウケモチノミコト)が祀られ、牛峰寺の本尊は藏王権現で、神仏習合寺院として但馬、因幡の牛飼いたちの信仰を集めていた。

今も7月18日に祭礼がある。昨年の祭礼の日、牛ヶ峰神社に上がった。山道の草がきれいに刈られ、山頂辺りのブナ林が心地よく迎えてくれた。

全国の黒毛和種牛の血統を可能な限り遡り、行き着いた。

渡辺 大直



★38★

金鳥とは、サッカー日本代表のマークになっている3本脚のカラス、八咫烏だ。八咫烏には、神武東征の際、熊野國から大和国への道案内をしたという神話があり、導き

た牛の出身地を調べると、約半分が兵庫県、すなわち但馬牛、約3割が鳥取県、すなわち因伯牛だ。黒毛和種の遺伝子の約8割を占める但馬牛、因伯牛の牛飼いに信仰された山となれば、但馬牛博物館と

して調べておく必要がある。当館の小玉学芸員と牛峰寺の菅田玄俊住職のお話をうかがって、牛峰寺の由来を書いた額がかかっている。この額は、梵鐘に刻まれていた由緒を菅田住職が書き起こされたものだ。

牛峰寺にはこの寺の由来を

地名なのに海上という地名なのに昔この下に大きな湖があり、ミズウミの上という意味だ。この湖に大蛇がすみ、牛峰寺の僧を呑んだので寺は衰退した。慈覚大師はモグサを詰めた藁人形を作り、大蛇に呑ませた。藁人形は大蛇の腹中で発火する仕掛けになつていて、大蛇はこれを呑み、のたうちまわつて死んで、大蛇はこれを呑み、のたうちまわつて死んで、この時、湖の堤を壊し、水が流れ出て越坂から海上に至る現在の地形になつたという。慈覚大師による再興後、牛峰寺は隆盛し、多くの塔頭が建つた。しかし豊臣秀吉の鳥取

の神、太陽の化身ともされる。

遠征の際、攻められて塔頭は

焼き払われた。その後再び寺

を建て、江戸時代(1672年)に、海上に移設されたが、

藏王権現等は山に残った。1

869年の神仏分離で牛ヶ峰神社と牛峰寺に分かれ、本尊の藏王権現は牛峰寺に移され、今日に至つている。牛峰寺には幾多の苦難を乗り越えてきた歴史があることを知った。

旧八田村は牛の改良に熱心な所で、江戸時代に植村治左衛門という人が「稗飯蔓」をつくつたと伝えられる。昭和の初め、その末裔といわれる「ふき蔓」の家系を中心にして、大蛇はこれを呑み、のたうちまわつて死んで、この時、湖の堤を壊し、水が流れ出て越坂から海上に至る現在の地形になつたといつた。慈覚大師による再興後、牛峰寺は隆盛し、多くの塔頭が建つた。しかし豊臣秀吉の鳥取



牛峰寺絵図(尾崎副総代の資料より)

牛ヶ峰神社は持統天皇の時代に造られ、牛峰寺は役行者が開いた天台密教寺院で、修驗道場だったという。しかしその後この寺は見る影もな

いほどに衰え、平安時代に慈覚大師が再興して、金鳥山牛峰寺と称するようになった。

馬牛をつくった先人の不屈の精神を重ね合わせてしまつた。

並ぶ但馬牛の育種資源だ。思わず、牛峰寺の歴史と但馬牛をつくった先人の不屈の精神を重ね合わせてしまつた。